「教育実習報告書」

[公立高等学校　国語]

私が教育実習を経験して学校教育において重要だと感じたことは生徒理解だ。生徒を理解することは授業のみならず教育活動のあらゆる場面で必要不可欠であると感じた。

授業においては教材研究の重要性を実感したが、この教材研究も生徒理解ができていないといけないと感じた。授業するクラスの雰囲気や生徒の理解度を考えていないと生徒を無視した授業になってしまう。私は生徒に合わせた発問をするために指導教官や同じクラスを教えている他の教科の先生に生徒の様子を聞いたり、授業の中に生徒の理解度を確認するための質問をたくさん入れるようにした。これによって最初は全く生徒のことがわからなかったが、徐々に生徒のことが分かってきて主発問も考えやすくなってきた。

もちろん発問だけでなく、授業の内容も生徒を知っていなければ組み立てることができない。私が特に教育実習で苦労したのがこの教える内容についてである。私は自分の教えたいことと生徒に教えるべきことのギャップに悩んだ。しかし指導教官は常に生徒のことを考えて行動される方で、授業の内容も生徒の理解度に合わせるのがとても上手な方だった。私はその姿を見て自分が教えたいことよりも生徒のレベルに合わせて授業することが重要だということを学んだ。指導教官の先生にも授業のアドバイスをいただく中でよく言われていたのが、「どう教えたら生徒たちが分かるのかをもっと考えないといけない」というものだった。自分で「大体こんな感じで教えれば伝わるだろう」と勝手に決めつけるのではなく、生徒にとってわかりやすい授業とは何かという視点が重要であることを学んだ。

授業以外の場面でも生徒を知るということの重要性を感じた。最も感じたのは生徒への声かけだ。教師と生徒としての良好な関係を築いていくためには日頃の声かけが重要であるということをある先生から教わった。生徒によって声をかけた時の反応は様々で、特に反応のない生徒にどう接したらいいのかに非常に悩んだ。先生に相談すると「めげずに声かけを続けていけば生徒のことも分かってくるし反応も変わってくるよ」と言われた。私は声かけが目的になっていて生徒を理解するということを忘れていたことに気づいた。次の日から私は全く反応してくれなくてもう声をかけるのが嫌だなと思っていた生徒にも積極的に声かけをするようにした。すると段々会話が２ラリーぐらいできるようになり、部活や趣味の話ができるようになった。その生徒は授業態度も良くなっていって授業をしっかり聞いてくれるようになった。

私が教育実習を通して学校教育は常に生徒が中心であり、その生徒を理解することが最も重要であることを学んだ。